



川崎医科大学付属病院

ドクターインタビュー

病気の症状がいくつもあってどの診療科を受診すればいいのか分からないという人は多いのではないだろうか。川崎医科大学付属病院は総合診療センターを昨年開設し、受診先を自分で判断できない人に対し幅広く全身を診て適切な専門科へつないでいる。臓器・組織別に細分化された現代の医療の中でセンターや総合診療科はどんな役割を果たすのか。センター長を務める和田秀穂部長（特別院長補佐、総合臨床医学特任教授）に聞いた。（二羽俊次）

総合診療センターの機能を教えてください。

三つの診察室を設けており、複数の症状があつて最初どの診療科で診てもらおうかという判断が難しい方を受け入れています。他院からの紹介はもちろん、予約も紹介状もない方も診ており、地域と当院をつなぐ役割を果たしています。血液、呼吸器、循環器、消化器、腎臓などの専門医がいるので、あらゆる疾患に対応できます。また、センターは大学の教育機能も併せ持っており、臨床実習中の医学生や初期研修医がベテラン医師とともに診察し、専門科へつないでいます。

川崎医科大学は総合診療に関して

総合診療センター

和田 秀穂センター長



わだ・ひでほ 川崎医科大学卒。2007年から同大血液内科学教授、同学主任教授、同大付属病院副院長などを歴任し、25年から総合臨床医学特任教授、付属病院特別院長補佐。同年創設したエイズ治療センターの初代センター長。

も務める。日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本輸血・細胞治療学会中国四国支部長など。博士（医学）。



患者を診察する和田センター長（撮影時のみマスクを外しました）

長い歴史があります。当大学は1980（昭和55）年に国内初の総合臨床医学教室を開講し、翌81年、大学病院としては初の総合診療部を設けました。病名のはっきりしない初診の患者さんを受け入れ、病歴などを調べて専門の診療科に橋渡しをし

てきました。こうした歴史や、複数の病気を持つお年寄りが増え医療ニーズがますます高まることを踏まえてセンターを開設したのです。

総合診療科はどのような役割を果たすのでしょうか。

さまざまな疾患がある患者さんに対し全人的な医療を提供することが大前提です。たとえば、高血圧で、ぜんそくも頭痛もあるという方に対し、「これはうちでは診ることができない」「他の診療科、他の病院を紹介する」とは言えません。総合診療科は丁寧な問診や検査によってどの病気を最優先して

全身診て専門科につなぐ

治療するかを判断します。複数の医療機関にかかれれば処方される薬の自己管理も難しくなります。受診先を最小限にとどめることで、副作用のリスクを下げることも期待できます。

総合診療科は新しく生まれた専門科です。

内科や外科など18の基本領域から一つを選択し3年以上かけて研修に取り組み、基本領域の専門医資格を取得した上で、より専門性の高いサブスペシヤリティ領域の研修に進む新専門医制度が2018年に導入されました。その後、総合診療科は19番目の診療科に新たに組み込まれました。

専門医はどれくらいいるのでしょうか。

認定機関である日本専門医機構によると昨年4月現在、全国で937人。うち岡山県内には20人います。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアを進める上で、各地域に総合診療の専門医がいて、かかりつけ医と基幹病院をつなぐ役割を果たすのが理想ですが、まだまだ少ないのが現実です。総合内科の知識や知見が豊富であることに加え、緊急性を要する症例もあるため初期救急に対応できる医師

数多い診療科の間にあるのは希少疾患であることが多いです。患者さんの中には専門医の網にかからず長期間、診断が付かないまま不安な日々を過ごしてきた方もいます。私ども総合診療科は各臓器と組織を横断的に診ることで希少疾患の早期発見につながることを常に意識しています。

実際、倦怠感や体重減少などが現れるACTH（副腎皮質刺激ホルモン）単独欠損症による副腎不全症、貧血や黄疸を引き起こす遺伝性球状赤血球症、首が激しく痛むクラウンダンス症候群、夜間頻尿や筋力低下が起きるギッテルマン症候群といった疾患を見つけ、適切な治療につなげています。

整形外科、皮膚科、消化器内科、耳鼻咽喉科といった辺りが多いです。疾患としては骨折、帯状疱疹、胃や肝臓、大腸などの炎症、突発性難聴などです。ただ、そこからさらに別の診療科に紹介されることもあります。最も重い病気の可能性を想定し診療科を決めているからです。

例えば、皮膚の炎症がある場合、まず皮膚科を紹介しますが、実は関節リウマチが原因ということがあります。それでも、もし皮膚科領域の感染症の蜂窩織炎だったなら治療が遅れば生命に関わることもあるのです。また、めまいの原因が脳卒中のこともあるので、「医療は患者さんのためにある」という当院の理念に沿った診療を実践すれば、おのずとそういう決断に至ります。



医学生を指導する和田センター長（右端）

総合診療科の役割